

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400071		
法人名	医療法人社団 清怜会		
事業所名	グループホーム紅葉の家(1号館)		
所在地	静岡県袋井市萱間944番地の1		
自己評価作成日	平成28年10月4日	評価結果市町村受理日	平成28年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JivovoCd=2276400071-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた中、今年は花壇も作り美しい花を散歩の途中で愛でています。地域の方の協力で畑を耕し、季節の野菜を植えて収穫しメニューに取り入れています。お花見、夏祭り、流しそうめん、運動会、餅つき等の催し物を計画し、入居者様と一緒に準備することで四季を感じて頂けるように支援しています。夏祭りは7回目を迎え地域との交流が活発になってきています。職員は笑顔を決やらず、明るく入居者様に接することや、その方を中心に考えたケアに心掛けています。高齢である入居者様はいつ何時体調の変化が現れるかわかりませんので、日々の小さな変化や状態を見逃さず、職員はその情報を周知し、その時その時、臨機応変に対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

正月には餅つきをするという広い庭で3つの家(ユニット)がつながり、散歩では互いの建物周りを散歩して挨拶し合い、隣近所のようなつきあいを送っています。袋井市公園緑地係から配られた花や、秋になると葉を落とす紅葉樹が植わり、事業所の名称さながらに色が変わることで季節の到来を知らせてくれます。職員は笑顔のある穏やかな話し方で利用者の安堵を誘っていることが外部者にもよく伝わります。5年ほど前から「出来ることは自分で」を推し進め、利用者の自己有用感も高まっていることを確認しました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いやりの介護で笑顔いっぱいの家」の理念を頭に入れ職員一人一人が入居者に対応している	以前は朝礼時に唱和をおこなっていましたが、現在はありません。ただし、誰もが目にする場所に理念を貼り、また法人主導の社員研修が行われることで新入社員の理解も進み、「思いやりの介護」が在ることは家族アンケートのファン化した声からも確認されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域、施設それぞれの行事がお互いにわかるよう連絡を取り合い参加可能な限り参加して交流を図っている	そば祭りや公民館祭りには毎年参加して顔売り、近所からの差し入れも日々あります。敬老の日には近隣の人も集う流しそうめんを開催するほか、地区の健康クラブや老人会との行き来も盛んで、また毎年夏祭りには子ども会を招待しての交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、勉強会などで認知症の理解や対応を考えてもらえるよう声かけしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開き、地域の方入所者のご家族、施設職員がお互い意見交換しサービス向上に活かしている	行政や家族だけでなく、健康クラブ、福寿会、自治会長や民生委員と、地域住民の支えを以て隔月開催が叶っています。自治会の紹介で土石流被害対策に係る講習に参加出来たり、認知症サポーター講習会も本会を通じて40名余の参会となり、有意義な運営に結ばれています。	不参加の家族にも内容を伝え、情報を共有することを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは、お互いに情報提供しあい、今の実情を知って頂き、協力を得ている	運営推進会議には地域包括支援センター職員が出席くださっていますが、土曜日開催にしたことで市役所からの参加が得にくくなっています。介護相談員は年に1~2回来訪していただき、年末に報告書の提示もあります。	市役所の担当者が交替したこともあって少し遠のいてしまった感があり、「今後は少しづつ市との関係を増やしたい」とのことでしたので、認知症サポーター養成講座の提案など具体的な事柄への検討を期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強している基本的に拘束していない、玄関も施錠していない	昼間は施錠せず開放的な場所を目指し、「帰りたい」「外に～」との症状のある利用者には職員連携を密にとり、なるべく発語となる前に戸外へ誘って平穩に過ごしてもらっています。教育は法人のAA課程で年間プログラムに組込まれ、所内でも事例検討を通じての学びがあります。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の勉強会にて虐待についても勉強している。身体面以外の言葉や態度の虐待にも気を付けて対応している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学んでいる。後見人のいる入居者もいるまたご家族からの相談があれば後見人の情報提供している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族からの質問があればその都度説明し、納得していただくようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン作成時には入居者や家族の意見を伺いプランを作成している本人の意向を最優先に取り入れている	レスポンスとフットワークの良さは家族との信頼を育てています。「避難口が役に立たないのでは」との指摘では、法人に打診してスロープの改善をおこない、消防署には「共有空間と居室を区切るドアを閉めれば避難口を使用しなくてもいい」との回答を得て家族に報告しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議、館ごとの会議、リーダー会等で意見交換し、コミュニケーションを図り働きやすくなるようにしている	職員会議が月1回おこなわれ、「エココスト」「接遇」「介護への意識向上」等が話し合われています。またユニット毎の会議では「勤務状況」や「始めたいこと」を、リーダー会議では「ユニット間で共有してほしい事」や「行事のスケジュール調整」と、3つの会議が有益に活用されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格を持つ事で給与に反映され仕事へのやりがいをもち働いていけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会社内の研修や外部での講習会等に参加しレベル向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は他の施設や講習会、交流会などでお互いの情報交換し良い所はとりいれている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何もわからないまま不安な気持ちで入所されるので本人やご家族の意向をよく伺い話し合っ て安心して生活できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時に本人の困っている事、や ってみたい事を伺い、それに沿ってご家族 の意見も取り入れサービスにつなげている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他のサ ービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時本人とご家族が本当に何が 必要なのか考え他のサービス利用も踏まえ 話し合っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や仕事など今までやってきた事を施設で 活かして頂けるよう職員も声かけし、一緒に やったりしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	入居者の日常の様子、体調などを月に1度た よりで報告している。またご家族が来設時 には入居者の様子を伝えている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所 との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人や親戚などが気軽に来設され本 人の部屋で話をされている。また一緒に外出 されたりしている	家族や知人の面会は頻繁にあります。後見人 が付く人が2名、生活保護者も1名いるため、来 訪者を笑顔で迎える一方で、寂しさを感じるこ とがないよう配慮しています。家族には写真付き の便りで普段の様子を月毎に届け、昔から通う 医院や墓参にも連れ出してもらっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよう な支援に努めている	入居者同士が交流できるよう3館合同でレク リエーションしている。耳の遠い方、目の見え にくい方など職員が間にはいり分かり易く楽し んでいただくようにしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了時でも必要に応じて情報を提供している。その後のご家族に何か相談があれば伺っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で入居者と会話したり、行動をみてその人の思いを汲み取り介護にいかしている	家族に尋ねたりもしますが、居室で寛ぐ利用者から呼ばれた職員がお願いをされることも多々あり、非常に社交的で自分の意見を積極的に話してくれる利用者に助けられています。聞き取った内容は介護詳細記録と情報収集表に書き込み、職員全員で共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護詳細記録等にて生活歴やそれまでの環境を確認し、補足で本人のこれまでの生活を伺い介護に活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人のペースに合わせて過ごして頂いている。体調、思いに変化があれば記録して職員皆が把握できるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回モニタリングして、本人の困った事やこうしてほしいと思う事を伺い、やれる事は実行している。またご家族にもその都度相談したり、報告したりしている	3ヶ月1度のモニタリングは「要望に沿っているかどうかを吟味する」ことを中心に、定例会議とは別に設定して丁寧におこなっています。介護計画書を掘り下げて見直していくことで、若年性認知症の利用者の症状が好転に向かった例もあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過最新情報をつくり、入居者個々の気づいた事を忘れないうちに記入し、介護に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の行きたい場所があれば可能な限り、付き添って出かけたり、ご家族が付き添えない場合は職員が付き添って受診などもしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事などに参加しています。また地域のボラティアの方の協力の下畑を作り、収穫して楽しんでいる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1度往診があり、本人の体調を自分で伝えたり、職員が伝えたりして体調管理している。また本人の希望があれば、往診医以外の受診にも付き添っている	概ね7割程度の利用者が協力医の訪問診療を月1回受けていますが、基本的に通院介助は家族にお願いしています。1週間～10日に1回程度、看護師訪問もあり、必要に応じて助言を求めています。薬は薬局の薬剤師から届き、塗り方といった使用上の説明も付帯くださっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師が来て体調の変化など相談している。また適切な受診や服薬など助言してもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の入院、退院時には入居者の情報を医療機関に提供している。また入居者の様子を見にいたり、医療関係者とも連絡を密にしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には話し合いの場を作り、重篤化や終末期に向け話をし、系列の施設の紹介をしている	「浴槽がまたげない」「呑み込みが悪くなった」「食事の量が減った」「気力が落ちた」「ふらつく」といった生活動作での小さな変化から重度化に向かってしていると判断して家族にも報告しています。ここ1年で4名のお見送りをしています。	職員の中には気持ちに影響があった人もいたとのことですので、看取り後の振り返りの機会(祈りカンファレンスなど)があることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や講習会などで救命法を勉強している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施している。昼間の訓練、夜間の訓練とそれぞれの対応を考えて実施している	年2回の法定訓練を遵守しつつ、運営推進会議との併催では見学を通じて意見を仰いでいます。土石流被害を知る講習会では予め準備できるものを確認したり、1回は消防署に立ち会ってもらい具体的な指導を受けたり、抜き打ちで夜間に避難訓練をおこなうなど、本件に意欲的です。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人接遇について学んでいる。言葉使い、プライバシーを損ねない声かけしている	職員の都合で無理を通したり嫌がる言葉を遣わないように、例えばトイレという言葉には反応してスムーズな誘導ができにくいいため、「ちょっとお願いできますか」といった声がけを主としています。また汚れた下着を部屋に隠す行為には、本人にわからないよう職員が対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ず、本人の意思を尊重し、何か行う時には、声かけしている。無理のないよう心身の様子をみて何かやって頂くようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人に合ったペースで生活してもらっている。特に自分からやりたい事が訴えられない方には、こちらから声かけし一緒にレクをしたり、お手伝いなどを行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみができる方には、その装いの感想を伝えたりしている、身だしなみが出来ない方には職員が洋服を選んだり、汚れていたら取り替えるなど気を配っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当番制で食器拭きをしたり、食材の仕分けをやったり、料理の下ごしらえなどのお手伝いをしている。また嫌いな食べ物は外したり、食べやすいよう刻んだりして提供している	外部から運ばれる食材を職員が中心になり、家庭の味を提供しています。また、利用者も片付けを当番制とし、下準備も手伝ってくれます。イベントではリクエストを優先し、お好み焼きやカレー、牡丹餅が人気で、誕生会ではホットケーキのデコレーションも楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人食事量、水分量のチェックをしている。栄養摂取の足りていない場合は栄養補助の飲み物を飲んでもらっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできない方には口腔ケアをお手伝いしている。月に1回歯科往診してもらっている方もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表チェックしている。それぞれ入居者に合わせ気持ち良く過ごせるようトイレ誘導したり、パット交換している	排泄に係る情報は介護記録で職員全員が把握しています。トイレ誘導の賜物でリハビリパンツからパッドに向上した例もあり、3号館では高齢による重度化が進んでいるものの、全体でオムツを使う人は少なく夜だけという人が1名のみです。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には水分を多く摂ってもらったり、運動したりしてもらっている。それでも無理なら、服薬してもらい解消している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタルチェックし体調にあわせて入浴している	ユニットごとに浴室のカラーを替えています。タイル張りなど造りは同じです。浴槽がやや深いため事故がないよう十分見守ることが常となり、またカビひとつない清潔な環境をつくり、また冬場はヒーターを用意してと、快適に過ごせるよう努めていますが、湯は足し湯です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体のしんどい時はやすんでもらっている。また良く眠れるよう寝具をほしたり、エアコンで温度調節して休んでもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	体の変調があれば往診医に相談し、薬の調整もしている。またどんな薬を飲んでいるか把握しているまた飲み忘れないよう服薬後の袋の確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割をもって、お手伝いしてもらったり、草取りしたり、している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自分の行きたい所へは可能な限り外出援助している。家族とも旅行したり、買い物に行ったりしているまた地域の行事などにも参加している	四季を通じ、小國神社や花鳥園、ガーデンパーク等月1回の頻度で外出イベントを企画するほか、誕生日には個別サプライズ外出もあります。ひまわり畑といった近くへのドライブだけでなく年に2回東京の介護旅行サービスに依頼しての旅行も楽しみの一つで、家族も誘っています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりおこずかいを預かり、使いたい時いつでもつかえるようにしている。また自分でこずかいを持っている方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様は希望があれば、家族に電話をしている。また手紙が届けば、代読したりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は常に清潔に明るくしている。台所からは食事を作る良い匂いがし、常に心地良いように換気・温度には気を配っている。	切り絵、刺し子、モビールといった小物で「楽しく」との工夫がみられ、またリビングにいる利用者は非常に明るく、ストレートに自分の想いを伝えていく様子が印象的です。正月に向け餅つきをするという眺めのよい広い庭では、秋になると葉を落とす紅葉樹が季節の到来を知らせてくれます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	プライバシーが守れるよう気をつけている。一人ひとり自分の居室でゆっくり過ごされている。また気の合った入居者同士がホールで話をしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具をそのまま持ちいれて、テレビや冷蔵庫などもおいて、居室にいても心地よい生活ができるようにしている	詩や歌を嗜む人の作品はリビングや自室に貼りだされ、訪問者にも詠んでくださいます。また壁一面好きな塗り絵で埋め尽くし、来訪者にプレゼントする利用者もいます。仏壇のほかテレビや冷蔵庫、ソファが置かれた居室では、一つひとつのモノに伴侶を偲んでいる様子が伝わります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使って移動したり、トイレやお風呂などやれる限り自分でやっていただくよう声かけ、見守りしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400071		
法人名	医療法人社団 清怜会		
事業所名	グループホーム紅葉の家(2号館)		
所在地	静岡県袋井市萱間944番地の1		
自己評価作成日	平成28年10月4日	評価結果市町村受理日	平成28年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokansaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JivovoCd=2276400071-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた中、今年は花壇も作り美しい花を散歩の途中で愛でています。地域の方の協力で畑を耕し、季節の野菜を植えて収穫しメニューに取り入れています。お花見、夏祭り、流しそうめん、運動会、餅つき等の催し物を計画し、入居者様と一緒に準備することで四季を感じて頂けるように支援しています。夏祭りは7回目を迎え地域との交流が活発になってきています。職員は笑顔を決やらず、明るく入居者様に接することや、その方を中心に考えたケアに心掛けています。高齢である入居者様はいつ何時体調の変化が現れるかわかりませんので、日々の小さな変化や状態を見逃さず、職員はその情報を周知し、その時その時、臨機応変に対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

正月には餅つきをするという広い庭で3つの家(ユニット)がつながり、散歩では互いの建物周りを散歩して挨拶し合い、隣近所のようなつきあいを送っています。袋井市公園緑地係から配られた花や、秋になると葉を落とす紅葉樹が植わり、事業所の名称さながらに色が変わることで季節の到来を知らせてくれます。職員は笑顔のある穏やかな話し方で利用者の安堵を誘っていることが外部者にもよく伝わります。5年ほど前から「出来ることは自分で」を推し進め、利用者の自己有用感も高まっていることを確認しました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は「思いやりの介護で笑顔いっぱいの家」であり、管理者はじめ、職員全員で介護の向上と笑顔で明るく接することを実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に1度の大イベントに夏祭りがあり、運営推進会議等で、地域の方々にも参加して頂いたり、地域の祭りや、公民館祭り等に参加させていただき、交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月に1回職員間の勉強会を行ったり、運営推進会議で、認知症サポーター養成講座を年に1回開催し認知症の人の思いを理解し支援方法を学ぶ機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居者様の様子やサービスの報告をしています。会議の出席者には入居者様も出席し、地域の方々と交えて情報交換し、会議で出た意見はサービス向上に生かすようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市介護課へ会議の議事録を持参し、空き状況の相談や情報を伝えて関係作り努めている。年に2回情報交換会があり他の事業所と交流もある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設では身体拘束宣言ゼロを目指し取り組んでいて職員は全員周知している。玄関も施錠していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設での勉強会や法人よりテキスト配布され高齢者の虐待について学び、職員間でも、特に言葉使いには注意しあうように気をつけ防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	他館で「きづなの会」を利用している入居者様が居るので、制度を理解する良い機会を得ている。今後、今いる入居者様で制度を必要となる方もいると思われるので、必要があれば伝え、活用できるように支援していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は入居時には一通りの説明をし、理解を得ている。不安や疑問点は納得いくまで丁寧に説明している。改定時も同様にご家族様に説明し理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見を聴く意見箱を設置しているが利用はほとんどない状態です。 来設時に直接職員がご家族様から意見や要望を伺うように努めていて改善の必要があった場合は、運営推進会議等で改善点を公表している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開き意見や提案を聞き反映させている。 又、他施設との情報交換もしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「給与・勤務・職場110番」が法人にあり、疑問質問があれば聞ける体制が整っている。資格を持つことで給料に反映され、やりがいや向上心を持って働ける環境づくりがある。時勢に合った給与の改正もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内の研修にとどまらず、市の介護保険研究会といった法人内外の様々な研修の知らせを職員に告知している。 外部研修会に定期的に参加しレベルアップを図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人でグループ職員の質の向上を図るための勉強会や交流会を通し情報交換をする機会を設けてくれているので必ず出席している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人やご家族様の困っていることやわからないこと等は、初期の段階からじっくり傾聴し安心して頂く。又、不安時は寄り添い、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時にご家族様の困っていることや不安材料はしっかり伺い、ケアプランを作成している。問題解決に向けてご家族様とも情報を共有し、チームケアに反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在までの生活様式を把握し、利用者やご家族様が今一番求めていることをよく伺い、他のサービスも検討しながら支援に繋げるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、利用者様が何が出来るかといった潜在能力を引き出す介護で、職員と一緒に行動し、ともに暮らす関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の日常の様子や体調などを月1回紅葉便りとして手紙で知らせている。又、ご家族様来設時にも状態を伝えたり、相談したりの関係を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、友人等が気軽に面会に来設し一緒に外出されたり、地域の行事に参加、誕生日や施設レクリエーションで外へ出る機会を作ったりし支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩して他の館の方々と顔を合わせ挨拶・会話し合ったり、合同でレクリエーションし交流している。皆が会話できるようかわりを増やし、孤立しないよう声掛けしてます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要であれば情報支援、連携支援等の対応はしていく。袋井ケアセンターに移動された方には、合いに行ったり、合えば声掛けあってこれまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時に意向を聞いたり、日常生活からのご本人との会話や様子から、その方の思いをくみ取っている。困難な場合であっても行動観察し、ジェスチャー等を使い思いに近づける努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に知り得なかった情報は日々の会話の中から拾い上げ、家人からも伺ったりして馴染みの暮らし方、生活環境、暮らし方、以前のサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方で特に変化のある事柄や心身の異常は介護既経過に記載し有する力や現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時や担当者会議は勿論、日頃よりご家族・本人がその都度参加され、それぞれの思いを話し合っ、その意見が現状に即した介護計画であるよう作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中で、気づきや小さな出来事を介護経過に記入し、情報を共有している。又、実践や介護計画の見直しにも参考に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の介護の中から入所者の要望に耳を傾けて、その時々を皆で話し合い対応している。色々な支援を参考にやりたいことはサービスに反映している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域から声をかけて頂き、行事に参加したり、地域の方の協力のもと畑づくりをし、作物を育て。収穫し、収穫物を美味しく食べ暮らして楽しんでいる。今年から花壇づくりにも挑戦している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1度往診をし、ご家族様に情報を伝えている。担当医のある方は、家人と一緒に受診して頂き、内容や薬の状況を伺い対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回ケアセンターの看護師に来てもらい、入居者様の様子を伝えている。入居者様は看護師に自ら話したり、相談もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院時には必ず職員が付き添い、こちらの情報を詳細に伝えている。又、経過の把握に病院を訪ね、情報交換や、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の状態の変化をご家族様に報告し、医療連携したり、他の施設移動も視野に入れながらも、出来るだけ支援していく。又、ターミナルケアもあった。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の教育、勉強会、他の研修会に参加し、救命救急に役に立つよう定期的に勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回ケアセンター含め合同で訓練を行っている。新入社員には必ず実行してもらい、夜勤帯や日勤時の災害も考え訓練している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言動には十分注意し、一人ひとりに合わせた声掛けをしている。トイレ時・入浴その他のプライバシーにも配慮し、精神的な面での声掛けも丁寧に対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	3か月に1回のモニタリングの中であったり、日常生活において入居者様は会話の中で思いや希望を表したり、自分の意思を自由にさせる雰囲気作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムを大切に、その方の興味のあるレクリエーションなどで過ごし、職員もそのペースを考えたり、乱すことの内無いよう守り・支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や着替えの洋服を選べる方はご自分でやって頂き、出来なき方でも職員とともに選んでいる。時節にあった洋服なのか等身だしなみのチェックの支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立を作るときに入所者様に参加して頂き、好みのメニューを取り入れたりしている。テーブル拭き、下ごしらえ、後かたづけ、食器洗いも一緒にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日チェックしている。持病の状態により減塩食の提供、嚥下状態に応じ食事の調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は自分でやっているが確認する。出来ない方は付き添い、少しでも自分で行えるよう声掛け介助している。散歩後、外出後、特に夕食後の口腔ケアを大切にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄のパターンを把握している。声掛けや誘導で、トイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を見て、便秘の方には水分を多く摂取して頂いている。食事では、食物繊維を多く含む食材に変更したり、良く歩くよう運動への働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回で時る間も決まっているが、変更する時もある。平等になるように順番の入れ替えをしたり、体調不良や本人の希望に沿って無理な入浴は避けるようにしている。それ以外はゆっくり入浴してもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人からの要望を受け休息をしたり、生活において全般的に自由に行っている。思い入れのあるものを居室に置いたり飾ったりし、日常のリズムを考え自宅にいるような安心感で過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬は、目的、副作用、用法、用量について職員は理解して情報を共有している。まずは誤薬は絶対しないように対策を講じている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの体調や生活歴に合ったゲームやレクリエーションを行っている。食べたいものを伺って献立に取り入れたり、ご家族様とも協力し合い外出等で気分転換を図れる支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日に合わせてご本人の要望を受け外出したり、施設のレクリエーションとして皆で外出したり、ご家族様の協力のもと色々な所へ出掛けしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば外出援助時や誕生日、地域の行事でお金を使つての買い物援助を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればその都度電話を掛けるようにしている。今はお一人ですが毎日の塗り絵で仕上げたハガキを利用して、自宅へ送ることができるよう支援をしていきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除をして清潔を保っている。夏にはよしずで光や温度調整し、ドアを開けて風を取り込み、季節にちなんだ掲示物を作成し掲示し、花を飾ったりして季節感を出している。ホールは無駄なものは置かずすっきりさせる配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ好きな所でくつろいで頂いている。興味のあるものであれば皆でテレビを見たり、話し合ったりできるよう声かけている。一人になりたい時は居室に行ったり、どんな時でも自由でしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物、好みの品物を持ってきてもらい居室や手元に置き、気が付いたときにすぐに取り出せるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	建物内部の重要な個所に張り紙をし、入居者様自身が考えて行動できるようにしている。又、家事全般を職員とともに行動し行い、出来るだけ自立した生活を送れるよう支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400071		
法人名	医療法人社団 清怜会		
事業所名	グループホーム紅葉の家(3号館)		
所在地	静岡県袋井市萱間944番地の1		
自己評価作成日	平成28年10月4日	評価結果市町村受理日	平成28年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kairokansaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&jivovoCd=2276400071-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた中、今年は花壇も作り美しい花を散歩の途中で愛でています。地域の方の協力で畑を耕し、季節の野菜を植えて収穫しメニューに取り入れています。お花見、夏祭り、流しそうめん、運動会、餅つき等の催し物を計画し、入居者様と一緒に準備することで四季を感じて頂けるように支援しています。夏祭りは7回目を迎え地域との交流が活発になってきています。職員は笑顔を決やらず、明るく入居者様に接することや、その方を中心に考えたケアに心掛けています。高齢である入居者様はいつ何時体調の変化が現れるかわかりませんので、日々の小さな変化や状態を見逃さず、職員はその情報を周知し、その時その時、臨機応変に対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

正月には餅つきをするという広い庭で3つの家(ユニット)がつながり、散歩では互いの建物周りを散歩して挨拶し合い、隣近所のようなつきあいを送っています。袋井市公園緑地係から配られた花や、秋になると葉を落とす紅葉樹が植わり、事業所の名称さながらに色が変わることで季節の到来を知らせてくれます。職員は笑顔のある穏やかな話し方で利用者の安堵を誘っていることが外部者にもよく伝わります。5年ほど前から「出来ることは自分で」を推し進め、利用者の自己有用感も高まっていることを確認しました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いやりの介護で笑顔いっぱいの家」の理念の元、職員は、入居者様の笑顔を引き出せるように日々努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	夏祭りや、運営推進会議等で、地域の方々にも参加して頂いたり、地域の祭りや、公民館祭り等に参加させていただき、交流に努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方が犬や猫を連れて気くさり交流したり、認知症サポーター養成講座を年に1回開催し認知症の理解や支援方法を学ぶ機会を作っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居者様の様子やサービスの報告をしている。会議の出席者にも、入居者様と一緒にレクリエーションをする機会を設け体験して頂いたりしている。会議で出た意見はサービス向上に生かすように改善している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市介護課へ会議の議事録を持参し、空き状況の相談や情報を伝えて関係作り努めている。年に2回情報交換会があり他の事業所と交流もある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自分で出入りできない部屋に隔離することや、入居者様の行動を職員の都合で制限するようなことはしない		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で高齢者の虐待について学び、職員間でも、特に言葉使いには注意しあうように気をつけている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「きづなの会」を利用している入居者様が居るので、制度を理解する良い機会を得ている。今後、今いる入居者様で制度を必要となる方もいると思われるので、必要があれば伝え、活用できるように支援していく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には一通りの説明をし、疑問質問があるか尋ね、理解を得ている。改定時と同様にご家族様に説明し理解を頂き、納得して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが利用は無い。来設時に直接職員がご家族様から意見や要望を伺うように努めている。改善の必要があった場合は運営推進会議等で改善点を公表している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開き意見や提案を聞き反映させている。会議に不参加だった職員間の意見、提案を聞くユニット会議を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「給与・勤務・職場110番」が法人にあり、疑問質問があれば聞ける体制が整っている。時勢に合った給与の改正もある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修の知らせを職員に告知している外部研修会に定期的に出席しレベルアップを図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人でグループ職員の質の向上を図るための勉強会や交流会を通し情報交換をする機会を設けてくれているので必ず出席している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様のは必ず会いに行き、本人に困っていること・不安な事等要望をお伺いしている。言葉に表現できない方に対してはその方の思いをくみ取り様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の見学段階でまず施設、その環境、その中の職員を気に入ってもらい、良い印象を持ってもらう。家族が安心して困っていること等を話される対応が取れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家人・本人が一番必要としている支援を聞き出し対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の暮らしぶりや生活習慣を聞き出し、その人のパターンに合わせた生活ができるようにしている。一緒に食事を作り、食べたり、レクリエーションを一緒にして関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望に添えるように、ご家族の協力が得られる方は、外出に連れ出して貰ったり、施設での外出(催し物)にも、一緒に参加して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所づきあいしていた方が、気軽に会いに来てくれたり、隣接の施設に来た時に必ず顔を出してくれる方もいるので、職員は快くお迎えしている。遠方の姉妹と手紙のやり取りをしている方もいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合ったり、会話の弾む方同士は、なるべく同じテーブルにしている。孤立しないように職員が間に入りコミュニケーションを取っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	系列の施設に入居された方には、会いに行った、行事であったら声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が意向を訴えられる方には、伺い、意向に添えるようにしている。その場合は危険が無い様に見守っている。困難な場合は、顔の表情やしぐさ等で今何を訴えたいのか”気づき”を大切に、その方の思いを大切にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に、生活歴や暮らしぶりを聞き取っているが、聞き取れない所は、普段の会話の中で出てきた事、情報は、記録に残し職員が全員共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の中で拘りや、生活パターンを把握した時には職員全員が周知するようにしている。いつもと違う様子があればバイタルチェックし、様子を記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望を家族と話し合い、可能な限り取り入れている。機能低下等で現状と違いが生じたときには再度話し合いをし、現状に即して介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな変化があれば必ず情報は共有する様にしている。体調によって介護の方法を試行錯誤し、その人に合った方法を見つけ出し、職員全員が統一し実践できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体を動かしたいという入居者様と、隣接の施設に行きエルゴメーターをやってくる。鉢植えの花の水やりを日課にされていた方が、お花を地植えにしたいと希望され、一緒に植え替えをした。要望があれば柔軟に対応していきたいと思う。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りや地区の祭り、公民館祭りに参加している。施設内に畑もあり、地域の方のご協力の元、作物を作っている。今年の夏祭りでは地区の子供達と一緒に畑で採れた野菜を使用しカレーを作った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回往診があり診て頂いている。急変があったときにはかかりつけ医に診て頂き、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月数回併設の施設から健康管理に来ていただき日常の様子を伝えている。その時の様子で適切な処置やアドバイスを頂き、入居者が適切な受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は施設での生活の様子や認知症に関する面を伝えている。医療連携室や担当看護師と連絡を取り、退院がスムーズにできるように連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の希望があれば、ここで出来る事を説明し、納得して頂いたうえで方針を決めている。また連携の施設への移動も可能であることも家族との話の中で説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で職員1人1人が対応できるように学び、実践力を身に付けている。急変がありそうな方への対応を職員全員が出来るように話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練とそれに伴い予行練習、反省を兼ね再び実施している。運営推進会議に自治会長が出席し、自立避難の困難な人が多く職員が少ないことを把握していただき、協力体制が必要だと理解してくれた。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに合った声掛けをするように気をつけて対応している。赤ちゃん言葉や、上から目線の声掛けをしないように職員同士注意しあい気をつけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で希望を言える人には自己決定して頂いている。困難な方には、日々の行動や顔つきちょっとしたしぐさ等で、どう思っているのかをくみ取り希望に添えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人に声をかけその人が望む1日の暮らしができるように支援している。出来る限りの希望は叶えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服、自分の好きな色等を本人に聞き、勧めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき食器拭き等をやっていただき、今日のメニューが何かと話をしながら楽しんでもらう。また同じテーブルで食事を摂り、声掛けしながら召し上がっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	筋肉の衰えや歯の欠損などにより硬い物や噛み切りにくい物を刻みや、とろみをつける等して工夫している。水補給は決められた時間だけでなく、その日の気温や体温によって気を配りとってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後できる方はして頂いている。夕食後は必ず口腔ケアをしている。自分でできない方には職員が歯間ブラシ・スポンジブラシ・歯ブラシを使い分けケアしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導票を活用し排泄の時間を把握し、トイレで排泄できるように心がけている。声掛けや誘導してトイレで排泄している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	機能や筋力の低下が便秘になりやすい体質になってしまうので、なるべく歩くことを勧め散歩をしている。水分や食物繊維を多くとり改善できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は急がせ利せず、湯船につかって気持ちよくなっていただくように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調を考慮して居室で休んでいただいている。居室の温度に気をつけ明かりもその方合った明るさにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員1人1人内服の用法容量は理解している。誤薬の無い様に名前を確認し、口の中に入ったか確認している。薬が変わったときは様子を確認し、変化があれば記録し、職員が周知するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いをお願いし、その方の役割を支援している。ご本人の希望に沿ったし好品を提供している。また希望のあるレクリエーションを個々に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物で外出したり、季節を感じられるような行事を行っている。その際にはご家族様や地域の方との触れ合いの機会もある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行きたい希望のある方には、職員が付き添い一緒に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度家族に電話を掛けている。また遠方の姉妹から手紙が来る方には職員が代読し、それにまつわった話を色々している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その方の思い思いの居場所があり、そこに座り穏やかに過ごしている。エアコンは入居者様の過ごしやすい温度に合わせている。台所で、包丁で切る音や煮炊きの匂いを五感で感じ生活感があるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話しや気の合う方は席を近くし、お互い話ができるようにしている。ホールから居室までの廊下は仕切りが無いので、居室に行きたい時はいつでもいける。ホールの音も適度に居室に聞こえるため食事の準備やレクリエーションの様子が解る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していたタンスや鏡台、時計、座布団等、馴染みのものを持ってきていただき、心地よく過ごしていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には障害物を置かない。歩行がおぼつかない方の居室には移動の妨げになる物は置かないようにしている。廊下歩行時には手すりや杖を使用して頂くように声掛け支援している。		